

『楽々政治学のススメ』を読んで

本日（2012/3/10）アマゾンで『楽々政治学のススメ』と『オーウェル『動物農場』の政治学』が届き、まず、『楽々政治学』の方を一气読みさせていただきました。本当に面白かったです。現在夜中1時ですが、興奮状態のまま、駄文を書かせていただきます。

私は学生時代を振り返って、後悔していることがあります。

- ・あまりにも不勉強だったこと
- ・無知なまま、ただ本を読み漁った生半可な知識で偉そうにいろいろと発言したこと、人を批判したこと。そして、就職後も恥ずかしい駄文を先生にメールで送りつけたこと（今もそうかもしれませんが）
- ・結局卒論もそれに伴う活動も、就職活動の方が大事だから、とないがしろにしたこと

ここ数年は仕事も落ち着いており、生涯で一番本を読み、考えることができています。少なくとも、自分が無知であること、『動物農場』の動物たちのように、実際は自分で判断できず、「実をいえばそのときしゃべっている方の意見に引きずられて、つい、なるほど、と思ってしまう」（角川クラシック版、P58）ということが自覚できました。（『動物農場』は原作はすでに読んでいたので、これから先生の著作を読ませていただきます。）自覚するとともに、前述の後悔、羞恥の念が湧きあがっています。

「いいわけ」が過ぎました。

以下、一読者の感想文です。

まず、**規制緩和**について。

昆虫を売っているのが日本だけの現象であるとか、クワガタが100億円の市場規模を持っているとか、まず驚きでした。ブラックバスが日本の固有種を駆逐している、というのは有名な話ですが… いくらでもこのような話はあるのですね。

しかも、法律等の改正ではなく、官僚の不透明な裁量権でここまで…

（官僚は、各利害関係者の圧力で仕方なく…とっているとも思います。でも確かに権限の「源泉」ですね。）

TPPを先生がどのようにお考えになるんだろう、とか、最近映画で見た「FOOD.inc」（農業、畜産の工業化とその弊害を告発したドキュメンタリー。企業の利益＝規制緩和を推し進めた結果、食の安全はないがしろに）とか、頭に浮かびました。

そして、「公共選択論」において、それぞれの利害関係者は当事者としては「善意」で動いているのではないか、最近気に入っている言葉ですが、まさに「地獄への道は善意で舗装されている」ということではないか、と思いました。

なぜ金メダルにジーンとくるのかについて。

私は、特に「右傾化した」若者、だったと思っています。学生の時もよく、「最近の若者は右傾化している」と言われていました。今回の東日本大震災でも、「日本」「国民」ということを強く感じる機会でした。自分の仕事もきっとまわりまわって「日本」のためになるはずだと今も思っていますし、かなり感情的にも「熱く」なりました。(今もなっています。そして、そのこと自体を「悪い」とは思いません。)

ただ、あまりに周りが「がんばろう、日本」になった事と、ずっと「なんでこんなに「右」が気持ちいいんだろう、自分は気に入るんだろう？」という疑問があった事があって、本を読み漁っていました。

自分は学生時代のあの当時、実はボロボロでした。大学に入って始めたサークルになじめず、居場所がなく逃げるように辞めてしまい、友達も知り合いも全然いない状態で、ゼミに入っていました。極度に人間不信で情緒不安定でした。そして、ナショナリズムに「回収」されました。「癒され」ていました。そう、今は振り返っています。

社会学者の小熊英二の『<癒し>のナショナリズム』、雨宮処凛の『生き地獄天国』、エーリッヒ・フロムの『自由からの逃走』を読んで、そのように自分を分析できました。

そして、先生の本章を読んで、よりくっきりと自身が当時おかれていた状況が認識できた気がしています。

「日本人」金メダリストの孫氏について、小熊の『単一民族神話の起源』での戦前は日本は「他民族国家」で日鮮同祖だから日韓併合は当たり前、天皇家にも朝鮮の血が入っているのだから、という言説が主流だったというエピソードを思い出しました。そして、今は「単一民族」のチームワークなどと言っている。(でも、現在の天皇陛下や天皇制に対して、ものすごく好意的な想いが自身にあります。刷り込みなのでしょうか)

(脱線ですが、最近読んだ本で『あんぼん 孫正義伝』が面白かったです。「在日」だからこそ、ソフトバンク社長の孫正義が生まれた。その孫は「日本を愛している」。)

「当(う)かってなんぼ」について

代議士の「本音」の「トップにならなきゃ国は動かせねえ！」がマジックワードではないかと考えます。どんなに偉そうなことをいってみても、おかしいと思っても、1年生議員では何も変えられないし、何の影響力を持ってない。自分が上に上がれば上がるほど、「より良く」できる。これが、当初の「出世」ということに対する想いの一つだと思います。

(官僚であれ、民間企業であれ、濃淡あれど同じではないか？自分が政治家になったら「同じことを考えるのではないか？」と思うのです…)

そして、このマジックワードのもとに落ちたら元も子も無いのだからと地元で利益誘導を進める。官僚は省益のみを考える。民間企業の社員は利益だけ考えて無茶をする。そんな事を思いました。

また、「利益誘導」と言われても、有権者の想いを繁栄させたただけだ、地方を切り捨てない国土の全体的な発展だ、「所得の再分配」だという意見もありそうです。

佐藤優が鈴木宗男が国策捜査のターゲットになった理由が、「所得の再分配」を進める政治家の象徴で、「新自由主義」の時代の流れであると言っていた事を思い出しました。

「鈴木宗男さんは、公平配分モデルから傾斜配分モデルへ、国際協調的愛国主義から自国中心のナショナリズムへと現下日本で進行している国家路線転換を促進するための格好の標的になった。」(『獄中記』岩波書店、499頁)

「天下り」という人事慣行について

自分の知り合いに官僚が多いため、国家公務員に対して私は「刷り込み」があります。どうしても擁護したくなる気分があります。

官僚の組織運営である「天下り」の構図は、民間企業（大企業）にもあります。むしろもっと緩やかですし、ある程度「台形」と思いますし、業界にもよるとは思います。

ただ、一般的な日本の会社では、入社年次は大事なファクターで、まだ「同期」という関係が生きていると思います。乱暴な整理の仕方ですが、多くの大会社は社長を頂点にピラミッド型の組織となっており、出世コースから外れると、関連会社に飛ばされていき、組織の新陳代謝が図られているのではと思います。

キャリア官僚と違うのは、関連会社で高給取りになるわけでもなく、影響力は残りますが基本弱まるだろう、ということです。関連会社出向含め、雇用は守られ、生活が保障される、「終身雇用」は守られる、という事が主眼であるように思います。受け入れる関連会社側からは「天下り」そのものと感じると思います。

(むしろ、単純化しすぎているのはわかっています。関連会社から本体に戻ったり、色々なケースがあるとは思いますが、あくまで一定の規模の「大企業」、ということです。)

また、入社がある一定の学歴で区分され、会社内でも学歴で区別されるというのはよく聞く話です。これも官僚よりは緩やかと思いますが、厳然たる事実だと思います。

結局、労働市場が固定化されていて、「終身雇用」という雇用慣行があると、「大企業」は(各省庁はまさに「大企業」という規模だと思います)組織運営上「天下り」システムが必要とされるのではないかと、思うのです。

(ちなみに私自身は「終身雇用」賛成です。「終身雇用」を崩そうと会社がしたら、反対する側に回ると思います。突き放して考えると、私はすでに「既得権益側」ということなのだろうと思います。)

よく言われることですが、公務員キャリアは、極端に「現役時代にもらっていない分を退職後にもらう」という形に問題があるのではないかと、思うのです。本当かどうかわかりませんが、「バッシングばかりされ給料も少ない」キャリア官僚のなり手が減っている、優秀な人材が集まらないということが起きている、と聞きます。それは、確実に日本にとって悪いのではないだろうか？ そんなことを考えました。

とはいえ、もちろん毎年 5 兆円が天下り維持に使われているのがよいと思いませんし、公務員天国の行きつく先はギリシャでは、とも思うのです。アメリカのように民間と頻繁に人事交流をする労働市場の自由化を（規制緩和！）とかもよく言われますが、アメリカは逆にウォール街が政治をのっっているじゃないか、と思いますし… 答えは自分の中にないのですが。

「赤狩り」について

まず、アメリカの「赤狩り」について、言葉は知っていましたがこんなにひどいものだったのか、と単純に驚きました。そして、先生が「ハシズム」に警戒する理由の一つがよくわかりました。彼が大阪市でやっていることは、まさに「忠誠審査委員会」の「調査」とオーバーラップします。

橋下さんは、「敵」を作るのが本当にうまいと思います。叩き放題の「特権階級」の「公務員」の守護者たる「労働組合」です。報道で見る限り、役所の労働組合がまともとは思いません（これも刷り込みでしょうか？）が、叩けばたたくほど、国民は拍手喝さいするだろうと。

小泉時代から続く新自由主義、弱肉強食な雰囲気、広がる格差、震災後も機能しない政治・・・嫌気がさす中、橋下さんが掲げるのは保守で、小さな政府（規制緩和）で、耳触りが良いです。時代の「空気」から、このまま、橋下さんが力をつけるような気がします。

（ただ、彼は「悪い」のか、自身の判断はついていません。「彼は織田信長だ。今日本は決定できる民主主義が必要なのだ。」と言われると、「なるほど～」とってしまう「動物農場な」自分がいます。）

憲法 9 条をめぐる発言も「うまいな」と思いました。橋本さんは、成熟した民主主義国である日本で価値観が完全一致することはない。国民投票を 2 回したらよい。1 回目は改正するかしないか。する、となったらどのような内容にするか 2 回目を。無知蒙昧な大衆にゆだねるのはポピュリズムという批判は、成熟した「日本国民」をなめている「自称インテリ」のたわごとだ、というような主旨で発言しています。

橋本さんは「一般国民の味方」であり、世間を知らない自称インテリ（「学者先生達」や「マスメディア」）は「社会の敵」という構図です。（山口二郎さんや香山リカさんは完全にその構図で「敵」になっているように思います。）

橋下さん自身は、国民が反対すれば、自分を落選させればそれで済む、と言うと思いますが、やっぱりどこか「危ない」のでは、と思います。

脱線が過ぎました。チャップリンの「モダン・タイムス」をゼミで見たことを懐かしく思い出します。チャップリンのほかの映画も是非見よう、と思いました。

社会主義国家とは何だったのかについて

まず、社会人になってから送りつけたメールで、「社会主義」と「共産主義」の区別がま

ったくついてなかった自分を思い出し、(そしてそれを忙しいのにやさしくご指摘いただいた事を思い出し) 赤面します。

そして、色々と本を読んで(『資本論』はすぐ挫折しました。結局、佐藤優とか、内田樹とかからの知識でしかないのですが) わかったつもりになっていたのですが、結局わかっていなかった事が本章を読んでわかり、また、赤面する思いです。

社会主義国家とは「プロレタリアート独裁」の国家で「共産主義国家」は字義的におかしいというご指摘されていたところを読み、ああやっぱり自分はわかっていなかったのだな、と思いました。

最近、対抗思想の「社会主義、共産主義」が敗北し、資本主義が「純化」し「暴走」した、「自壊」した、「卒業」しなければならない、資本主義 4.0 だ(意味わかりませんが)、ということがよく言われ、「資本主義」を「分析」したマルクスが見直されていると思います。非常に興味があるのですが、「資本論」で即挫折したので、なかなか踏み込めません…。

最近の「資本主義」批判を先生がどのようにお考えになるんだろう? などと思いました。

以上、長々と、興奮状態でつづった「感想文」です。

自分が思ったことや考えたことをぐだぐだ誰かに言いたいだけ、と言われたら、その通りです。忙しい先生に送りつけるのは、長文ですし失礼とわかっております。

結局、「学生時代ひどかったですが、ちょっとはマシになりました」と「言い訳」したいだけ、でもあります。でもどうしても「言い訳」したかったのです。

これからも、本だけは読み続け、勉強していこうと思います。(忙しくなると、「仕事だけ」になってしまうのですが。)

長文大変失礼いたしました。